

第一次産業の担い手のマッチングに関する分析

森下夢子

指導教員 小谷浩示

研究背景

高知県は人口減少に伴い、農業を始めとした第一次産業の従事者数も減少し続けている。この課題は長年指摘されているものの、抜本的解決には未だ至っていない。既存研究は農業の後継者不足を構造的要因から説明する研究や既存就農者または土地所有者が新規就農希望者を受け入れる条件や関係性に着目した研究が行われているが、既存就農者の意識に着目した研究は行われていない。

研究目的

本研究は後継者の有無、及び、外部後継希望者への引継ぎ意欲に影響を与える要因について分析を行う。

研究方法

高知県の就農者 97 人を対象にアンケート調査を実施し、後継者の有無、外部後継希望者への引継ぎ意欲、社会人口学的属性、営農特性、農業に対する意識・心理的要因に関するデータを収集した。収集したデータを基にロジット回帰分析を行った。

分析結果

非独立就農者よりも独立就農者の方が後継者を有する確率が低くなり、外部後継希望者への引継ぎ意欲も低い傾向にあることが分かった。加えて、農業の理想像や営農に対する態度は後継者の有無に影響を与える一方で、外部後継希望者への引継ぎ意欲には影響を与えないことも示された。

考察・結論

後継者の有無では、営農特性の他に農業観も影響している一方で、外部後継希望者への引継ぎ意欲に関しては農業観よりも営農特性や学歴に影響を受ける。後継者不足の問題は就農者個人の自助努力では限界があるため、営農特性を十分に考慮した第三者による継続的な支援が不可欠であると考える。